

水源禅師法話集 64

(2016年9月23日 大阪合宿7日目)

2017年2月18日

一乗禅の会



目次

水源禅師法話.....	1
慈悲の瞑想、そしてニミッタ・仏の光.....	1
ただ静かに、先生に言われた事だけを瞑想すれば間違いなく出来る.....	4
正式な法に出会っても、受け取る下準備がなければ.....	5
豚ちゃん、鶏ちゃん、蛇ちゃんから学ぶクサラ、アクサラ(善心、不善心).....	6
食欲と性欲、渴望があるゆえの輪廻転生.....	7
ジャータカ、エルダーティッサ.....	7
カシャパ尊者.....	9
前世のゴータマ仏陀とエルダーティッサ.....	10
深い意味のあるジャータカ物語.....	11
その人に合った「公案」でなければ空を観る事は出来ない.....	12
「人空・空空・法空」をしっかり観ればお釈迦様の話が深く理解できる.....	13
悪意のある人をやっつけたら、悪いカルマにはならない.....	14
公案(体験をされた方の)を与えられても、受け取るだけの下地がなければ難しい.....	16
私達は宇宙の大不可思議な生き物.....	19
本だけでは「その人が本当にそう言ったのか?」「本当にそうなのか?」わからない.....	20
慈悲の瞑想、死の瞑想、仏陀の瞑想.....	21

水源禪師法話

慈悲の瞑想、そしてニミッタ・仏の光

METTĀNUSSATI

(慈悲の瞑想 Meditation On Loving-Kindness)

(パーリ語読経)

Attupamāya sabbesam — Sattānam sukha Kāmatam

あなた方自身と他の方を Loving-Kindness の修行をしましょう。

Passitvā kamato mettam — Sabba sattesu bhāvaye.

そしてこの慈悲を全ての生きとし生けるものに対して送り、
生きとし生けるものが幸せであります様に。

Sukhī bhaveyyam niddukkho — Aham niccā aham viya

私が不幸と悲しみを離れて、幸せであります様に。

また他の方達もその様に幸せであります様に。

Hitā ca me sukhī hontu — Majjhata tha ca verino.

他の方達も私とまた全く違わない様に。

私を嫌いな方も、また私を全然気に留めない方達も幸せであります様に。

Imamhi gāmakkhettamhi — Sattā hontu sukhī sadā

そして全ての生き物達が、何時でも幸せの中にあります様に。

Tato param ca rajjesu — Cakkavālesu jantuno.

そしてこの世界の中の全ての王国・国々の方達も、幸せであります様に。

Samantā cakkā vālesu — Sattānam tesu pānino

そしてまた世界の全ての生き物達もまた

また全ての山河、河、海、空に住む雲達も。

Sukhino puggalā bhutā — Atta bhāva gatā siyum.

そういう中で生きられている方達も、最高の静寂を得ます様に。

そして幸せを得ます様に。

Tathā itthi pumā ceva — Ariyā anariyā pi ca

その様に、女性達も、男性達も、貴き方々も、世俗の方々も、神々も、また四悪道に住む方々も、そして全宇宙に住む方々も幸せであります様に。

Devā narā apāyatthā — Tathā dasa dīśāsu cā ti.

【水源師】

とお釈迦様は言いました。

この前にちょっと外れている所がありますけれども、まず窓辺に火を灯して、それを風の引く所に置かなければいけないという文章が外れていますね。ここ。ちょっと持ってきてみますけれども。火を灯して見るという所が外れていますよ。・・・火を灯すのはマラヌサティ。

ま、そういう風にまず自分をしっかりイメージする。内観、ヴィパッサナー。内観で。でしっかり観て、自分に憂いが無く、悲しみが無く、幸せであるイメージが浮かんだらそれをしっかりと留めて、そしてお父さんお母さんとか友人とか、広げて行きます。でその時に、全く自分を気に留めない人でもまた自分を嫌いな人でも、差別無くドンドン広げて行きます。一つ一つしっかり観て下さい。そうすれば、非常に成功しやすいです。何処までも広げて、行って下さい。特に法随観を一生懸命やられた方は、非常に進化が早いと思います。つまり、ニミッタ(丹光・禅相)は結局映像を作るのに非常に強烈ですから。でそのニミッタは、一体何か知っていますか？ニミッタの本源。誰か説明を聞いた事があります？

【参加者】

燃灯仏。

【水源師】

そうです。正解です。燃灯仏が何故ニミッタが使われたか分かりますか？これはですね、毘盧遮那仏(ピロシャナ仏)そのものです。ですから、『ピローシャナー』って出て来るでしょう？ここ(慈経の一節)。

(南伝の先生に、毘盧遮那仏の事を聞きましたが、その仏の事は聞いた事がないとの返答でした。ただ修行中にニミッタは毘盧遮那仏そのものではないかと感じた途端に、修行が急速に進みました。毘盧遮那仏は大日如来のことで、成田さんの大日如来の裏は怒り(ピロ)の不動明王のお姿で一体でした。大日如来は Virocana と言われてます。)

毘盧遮那仏そのものが、ニミッタです。仏光です。仏の光。だから仏光山という最高の教えを持っていると。仏そのものであると。だからお釈迦様が死ぬ時に「先生、私達はこれから誰を頼りにして生きて行ったら良いのでしょうか？」と。「一隅を照らす人になれ」と。「ニミッタを灯しなさい」と。ここの一箇所に。

それを日本では「世間で社会の中で照らす人間になれ」みたいな哲学的に解釈するけれど、これは全然瞑想と関係ない事で。仏教は、瞑想を外して仏教にはなりません。また仏教は、慈悲を外して仏教にはなりません。だから究極的には、ニミッタも慈悲も一体。愛もニミッタも実は一体のエネルギー体。結局、これは仏教学する人は明快に解説しなければいけないと思います。瞑想によって体験されて、哲学ではなく。哲学は人間の事で、科学も宇宙もまだまだ私達はこの宇宙で幼稚な生き物だから。その幼稚な考える事で原爆作って人を殺すくらいの頭しかないから。哲学では無理です。

ま、そういう事でお釈迦様の今の言葉を唱えながら、そしてさっき言った様に、まず自分が一切の憂いが無く、悲しみが無く幸せである時があったと思います。子供の時でも良いです。おもちゃを貰った時でも良いです。友達と遊んだ「楽しいな」というその映像をしっかりと受け止めてそれを広げて下さい。これがお釈迦様のおっしゃられる愛の瞑想の基本です。

Pさんが非常に旨くこの法を受け取っていますので、ちょっと私に聞きづらい所があったら気軽にお聞きして下さい。良いですか？これはPさんが、才能があるから出来たのではなく、法随観を必死に求めて行って、ニミッタで相当努力されたわけです。という下地があるから旨く行ったわけです。それが「法随観をやりたい」と。「一円相という字が出て来て、丸くパッと光った」と。「ああ、これは法随観」という事で、ずうっとやらせたわけです。強烈に。それでそういう強烈な時間もあるし、また本人も一生懸命やったから……。結局、法随観は非常に疲れるし、体力的な事もあって、「ではこれをやりなさい」と言ったら、スーと。これも法随観の一教科です。非常に大切な科目に入っています。

ま、そういう事で良いでしょうか？

— 瞑想 —



ただ静かに、先生に言われた事だけを瞑想すれば間違いなく出来る

【水源師】

いやあ皆さん良く頑張られて、続けてずうっと瞑想されて、良く頑張りました。やっぱり、瞑想はねそういう寺院とか修道院では、もう規則正しく決まっていますので、こう一旦サイクルに慣れれば、非常に楽ですけど、こうして社会に出られて働いて、サイクルを突然変えて、こういう風にすると言うのは、まあ本当にこう苦しい行になります。だからまあ皆さん良く頑張られてここまで来ました。ミャンマーとかあいう国ではやっぱり一ヶ月休んでね、一ヶ月。認められて、十分にゆっくりと寺院で、こう何と言うの？余儀として、国自体がそういうシステムになっていますけれど。

でまあ、今世で旨く行かなければ、また来世。来世で旨く行かなければ、またその来世と。あちらの比丘の方は、あんまり急がないです。「間違いだけは起こさない様に」と。その観念が強すぎて、今度は227も朝から晩までこう覚えて「何か間違いが無いか？」。こう萎縮しているわけですね。だから、間違いを起こさないのは、ピンダパータ(piṇḍapāta: 托鉢)に行つて食事を貰って、後は一仕事でゆっくりと。それは間違いがないから、それで(笑)。

でもね、お釈迦様の竹林精舎の時の比丘の戒は、13 だけだったのです。その間違いを起こす度にドンドン増えて行ったわけ(笑)。つまり色んな人間が居たら、それぞれ「あれ？」と思う様な事が出て来るものだから。で私がパオで227の戒律を覚えて「間違いのない様に」って言ったら、もうそれだけでもう一年過ごすから、時間が無いから。

じゃあどういう風にしたら、最高に間違いなく出来るかと。まず人と口を利かない様に。そしてただ瞑想だけして帰ると。先生から言われた通りの事だけをする。そうしたら、もう完全に227に入っていますから。でもね、追いかけるのですよ。私と話をしたくて。やっぱりこう分かるわけですね。公開インタビューだから。見た事も無い状況が発生しているから。今まで寺院でも。実はミャンマー中で噂が出たわけ。有り得ない事が発生したからです。まあそういう事で、まあただ瞑想だけね。ジーとして。でも後で聞いたけれど、あの寺院では私はスターだったと。だから全員から観られているわけです。だから、一つの間違いでも起こせばすぐ広まりますからね。だから私がただ瞑想だけして、人と出来るだけ会わない様に。そういう風にやるのだけれども、それでもやっぱりこう話しかけられるわけですね。

私が一番ゴエンカさんの所で困ったのは「絶対口を利かない様に」と。それは非常に楽なわけです。ところが、私は比丘でしょう？比丘はその戒律が分かっているのに、もう話しかけたくて仕方ないわけです。一番良いのは、サイレンス(silence: 沈黙)でおはよう、も何も言わずに、無言で行くのが私にとっては、最高なわけです。やっぱり興味があるわけですね。どうしてそういう風になるのか。それはね、先生に聞けば良いだけで、私は修行しているから。言われた通りにしているだけ。

まあそう言う事で、やっぱり戒律と言うのは大事だけれども、一番サイレンスで静かにする事自体、表面上ではそうだけれども、私はもう、話掛けられて、非常に困ったわけです。で、如何にして逃げ回るかと(笑)。人と会わない様に。そうでなければ、修行出来ないですからね。もう待たないですから、次から次と時間がない。人と話す時間。それだけ瞑想が、また

楽しいしね。人と無駄話する時間はないです。

でもね、やっぱり昼休み時間、外国の人が「どうしても話をしたいから」と。まあ、じゃあ時間決めて悩み事を聞いたり「どうしたら良いか」と、チョコチョコチョコッとお話はしました。でなければ完全に切ってしまうね、また逆効果で「ツンとしている」とか。「私達は、関係無い人間なのか？」と。そこはそれで慈悲のあれでね。「本当に困った、どうしようもない」と、「修行七年、パオに来ているけれど、旨く行かない」と。「座る事も出来ない」と。「どうしたら良いか」とか。まあやっぱり修行上の悩みですね。である人は「私は24年ゴエンカ氏の本部に居たけれど、こうやって行けば出来ないから」「じゃあお前ここ悪い」と。そこを直したら「今度はここ悪い」と。「どうしても、何処にも進めない」と。パオに居て「いやあ、ここは天国だ」と。「私はこれ以上何も求めないで、ただここに来るだけで幸せだ」と。スペインの方ですけれどね。

正式な法に出会っても、受け取る下準備がなければ

やっぱり、正式な法に出会うと言うのはまず難しいけれど、出会ってもそれを受け取る下準備が無ければ、武帝が「どれだけの高德があるか」と、達磨大師様に聞かれたら、その受け皿はザルみたいなものだから、高德はザルに水を注ぐ事に成ります。

結局瞑想と言う、そう言う下地が何も無くて、ただ経典を聞いてお祭りしているから、受け取るべき受け皿がないわけですね。ですと。ところが、本当に瞑想とかそういう法の下でやった場合には、しっかりした入れ物があるのですけれども。その前は、中国は経典仏教でしかなかったわけです。結局、本当のアラハト(阿羅漢)が例え来たとしても、言葉の関係で法が伝わりがたいと思います。だから達磨大師が二人の弟子を送っても、人知れず山の奥で死んで行ったわけです。偉大な生徒でも、言葉の関係でね。逆に、経典とかそういう文字で書いたものは、歴然として分かるから非常にありがたがられて、皆からチャホヤされると。

で、もし達磨大使様が中国に来なかったら、今のこの日本の仏教はないですよ。完全に崩壊。やっぱりそれはインドのカーヤヌパッサナー(身随観)、ヴェーダナーヌパッサナー(受随観)、チッタヌパッサナー(心随観)、それからダンマヌパッサナー(法随観)。ダンマヌパッサナー、これは無理。もちろん、達磨大師はもう法随観を皆分かっています。達磨禅経を読んだら、まずニミッタを要求されるからね。ニミッター、で密教でも、本当の護摩焚きをするには、ニミッタが無ければ難しいようです。ところが、結局時間が掛かるわけですよ。条件が要ってね。だから泉湧寺(せんにゅうじ)の京都の真言宗泉湧派の総本山の方(俊じょう)が初代だったかな？

天皇から送られて中国に行って14年(※中国には12年滞在)掛かってやっとガチリン(月輪)を得たわけ。白く丸いポツと出るでしょう？それをやると。皆さん観ているでしょう？14年掛かるわけです。掛けてやっとそれで護摩焚きが今度正式に出来る様になったようです。

と言うのは何故かと言ったら、密教の中核は、四無量念(四無量心=四梵住)、ブラフマ・ビハーラ(brahmavihāra:四梵住)で、あなた方に紹介した、メッター(mettā:慈)、カルナー(karunā:悲)、ムディダー(muditā:喜)、ウペッカー(upekkhā:捨)。メッター、最初の入り口。

結局法を持てば、今回の様にスウツと行くけれども、文献とか回りまわってあっちこっち行ったら、言葉が先走りして、パリー語の深い意味が入って来ないわけですね。

その深い意味をどういう事かと分かるのは、やっぱり瞑想をしっかりと体験したらその意味が分かって、そのバイブレーションが出て来るわけです。唱えても。そうでなければ、空(から)念仏になるからね。幾ら同じ様でも何も発生しないわけです。その事が分かっていないわけ。

結局、何と言うのかな？物を作るでしょう？物を。一生懸命、一生懸命作ったら、それに似た皿とか出来るではないですか？ところが、そういう皿を一生懸命作っても、最高の名人は一人か二人しか出ないでしょう。真似て、真似ても。結局、瞑想もそういうもので、極意を知った人が、次にまた伝えられるわけです。その極意を。やっぱり心なわけですね。心。

だから、それなくして、文献を見たり人の話を聞いたり、それは非常に危険。結局、昨日のお話で、村人が蚊を退治する為に、刀・槍・弓を持って行って、お互いに傷つけるみたいなものです。無謀です。全く一緒の事です。

そういう心は昔であって私達は関係ないと思っているでしょう？今はもっと酷くなっている。その時はまだ純情で、人間が蚊を退治しに行くと言う。今はもう大量虐殺しますからね。だからある政治家が「今は人をコントロールするのが昔よりずっと簡単だ」と。「一遍に数百万人の人を殺せるから」と。だからお釈迦様の優しい事、この時代の方々は本当に純情だと思います。

豚ちゃん、鶏ちゃん、蛇ちゃんから学ぶクサラ、アクサラ (善心、不善心)

一番簡単な「正しく見る」という事を力説して色んな事を言って、これを正しく見るにはやっぱり、豚ちゃん、鶏ちゃん、それから蛇ちゃんの良い所を見れば、また正しく見える。野ブタいるでしょう？野ブタ。野ブタがね、子供を連れて一生懸命せせせせと山を歩いて食事を探しに行くと。これは、善い心、善心。それに当てはまるか。鶏ちゃんがね、ヒヨコを連れて、「コッコッコ」って言って連れて、あっちこちに「ここに餌あるよ、餌あるよ」と。そういう鶏ちゃんの心が発生したら、クサラ(kusala:善)の心。間違いない。蛇もね、祠の中で子供が孵るまでジーッとそれを見守っているわけ。敵に襲われない様に。だからこの動物として、そういう風に見れば今度はクサラ・アクサラ(akusala:不善)、分かったでしょう？

で、この不善心が固まって、非常な不幸が起きて行くわけ、因縁として。それ昨日、結局ローサカ・ティッサの話で、たった一つ不善心を起こして。今度は、クサラの善心のやり方が分かったでしょう？そういう風に見るのが、正しく、ライトビュー(right view:正しい見方)、サンマーディッティ(Sammāditthi:正見)。

食欲と性欲、渴望があるゆえの輪廻転生

でも、そう言っても、何回も説明した様に、人間は食べなくては生きては行けないのです。お釈迦様でも食べます。食べる事によって、「これ美味しい、美味しくない」という様に出来ているわけです。ずうっと昔から。動物になっても人間になっても、また餓鬼界に落ちても、また食べるわけです。そういう物質。天界に行っても、また食べるわけです。一旦生命体を持てば、絶対死にたくないわけです。

りっしんべんに生きる。それを「性」と言います。SEX。この「りっしんべんに生きる心」は、食べなければいけない。食べなければ死ぬから絶対食べる。これが何回もあなた達に説明した様に、食欲と性欲は一緒だと。だからここでこの美味しい物を食べたいと言う渴望がここから来るわけ。この渴望が在る故に、死ぬ時にまた転生して行くわけ。転生して行く時に、やはりSEX カラーパ(kalāpa:聚)とカーヤ(kāya:身)、身体の物質と心、三つ。クオンタ(quantum:量子)ワールドで行くから、時空は関係ない、時間も関係ない。条件が合えば、スーとそこに輪廻転生します。それも条件は、心でしょう？サンカーラ(saṅkhāra:行、形成作用)、過去のサンカーラ全部固まって来るから、因縁なわけです。因縁の塊。だから昨日説明した様に、ローサカ・ティッサの因縁ね、絶対消えないわけです。

ま、そういう風に、食べるという。食べなければ生きて行けない。でも、これが食べるこの事が、美味しい物を食べたいという事が自我に直結してくるわけ。自我にふかーく、ふかーく食い込んで来ているからです。

ジャータカ、エルダーティッサ

それでまあ、今日もまたそれに関したお話でね。お釈迦様がね、竹林精舎でお話していた時に、その大富豪の息子さんがね「いやあ、素晴らしい」。「私はお釈迦様の下で、その教団に入ってお釈迦様の下で生きて行きたい」と。でも教団としては、両親の許可または奥さんの許可無しには、入れないわけ。許可無くして入って来たら、後で大変な問題を起こすでしょう？教団でも何でも。だからその時代から、もう両親の許可、または奥様の許可が無ければ入れない。奥さんが「嫌」と言ったら絶対入れない。承認権を持っていますね「はい、良いです」と、奥様が許可したら入団できます。

でも大富豪のエルダーティッサ。エルダー(Elder)となったら、アラハト。だからエルダー・ローサカティッサ(Elder Losaka Tissa)。長老という意味は、アラハン。でも今は、もう「長老、長老」と皆付けるでしょう？(笑)。私みたいなものは、いらんわけですよ。ここに来る長老が沢山居るから、日本には。まあそれは余談として。

それで、もうこのエルダーティッサ、チュッラピンダパーティカ・ティッサ長老は「小さな托鉢者のティッサ」と言う別名があるわけですね。

そして「いや、どうしてもなりたい」と。「でもお前は一人息子だから、この商家をどうするか」と。ね、沢山の人もいるし。彼も王子様みたいな生活をしているわけです。大富豪の息子だ

から。でもこのエルダーティッサは、「私が教団に入れなかったら、食べません」。七日間食べなかった。たぶん水も取らなかった。食べないだけだったら、もう三週間、一ヶ月生きますから、全然心配ないのだけれども。もう一人息子がドンドンやせ細って、水も取らない。コロッと死んだら、困るでしょう？で、仕方無しに「じゃあ、よし、よし」と。

その時にちょうどお釈迦様はサーバティー(舎衛城:コーサラ国首都)の祇園精舎に引越す所で、そのエルダーティッサもそこに行くわけです。でもお父さんとお母さんは、ラージャガハ(王舎城:現ラジギール)の街で大きなお祭りがある時に、やっぱり箱から息子のね、色んな衣装を見ては涙を流すわけです。「今どうしているのか」と。そして、その衣装をこう触ったり、着けてみて、お母さんはホロホロホロホロといつも いつも泣くわけですね。それを見た奴隷の、女の子が来て、「やあ、奥様、奥様、どうされたのですか？」と。「いや、実はこれ これこうで、もう悲しくて 悲しくてもう仕方がない」と。「死にそうだ」と。「じゃあそれだったら、私が奥様と旦那様のお坊ちやまを連れて来ましょう」と。「そんな事が出来るのか」と。「出来ます」と。「連れて来たら、私がこの家を取り仕切っても良いですか？」と。「もちろん、良いです」と。

それで、もう喜んで沢山の使用人とお金を渡して、そのかごに乗せてね、昔の乗り物はかごなわけです。御神輿のかごみたいに6人くらいで肩に担いで行くわけですね。牛車の場合にはね、道路がガタガタするけれど、人間が6人くらいで女性一人背負うのはわけないし、また人間がやるから柔らかいわけ、クッションが結局6人の足だから12の車があるみたいに柔らかいわけ、足バネですね。ただ、持って歩く方々は大変ですけど、でも沢山の金が掛かるし、だからまあ大富豪。まあそういう風にしてラージャガハからサーバティーまで歩いて行ったわけです。

で、その時の教団では13の掟があって、物を食べる時は、絶対人から入れて貰ったもの以外は駄目ですと。誰か「はい、これはどうぞ」と別に後で持って来たり、そばに置いても絶対に食べてはいけません。ピンダパータの時に入れたものしか食べない。でなければね、ピンダパータに行かなくても誰かが両親とかね、奥さんが差し入れ(笑)。「何で私は一生懸命足痛くして何キロも歩かなければいけないのに、差し入れでぬくぬくと暮らしている」と。実際にそういう事態が起こったから、絶対にそのお鉢に入ったもの以外は駄目と。

何故かと言ったら、やっぱり大金持ちも一杯修行に来るわけですよ。だから超大金持ちはね、寺院の前に別屋敷を建てて、使用人を住まわせて、至れり尽くせりがあったのだと思う。そしたらもう教団では、平等でなければ駄目。差別無く平等という掟があるから。だって、この人美味しいものばかり、この人はちょっと貧しいものしか食べられない。困るでしょう？だから、ピンダパータに行って、一軒一軒一つの家も漏らさず、貰いに行かなければいけないわけです。

カシャパ尊者

何故かと言ったらその昔ね、カシャパ尊者。もう超超スーパーアラハンの方です。この人もまたかた大富豪の息子で、お城みたいな所に住んでいる。それで、お父さんが心配して、嫁をどうしても取って欲しいわけ。「いや、私は結婚しません」。心の中では、「絶対にお釈迦様の所に行って、修行したいから結婚なんてとんでもない話だ」と、心の中では思っていたようです。そして、無理難題を言ったわけ。「お父さん、そしたらですね。私がこういう風に絵を描いて像を作りますので、こういう同じ女性が居たら結婚しても良いでしょう」と。絶対見つからないから、大丈夫だと思って。

ところが、もうお父さんとお母さんは、一人息子の子供が跡を継がなければ、と必死な訳です。昔は、子供がそう簡単には生まれなわけ、二人三人。生まれてもね、私達の時代ではよく子供が死んだり、お母さんが難産で死ぬわけです。だから、子供を生むと言うのは大変な事で、そうして息子が成長するというのは、昔はもう大変な事だったわけ。それでお父さんが、もうお城みたいな大富豪だから、それで使用人でもう全国探し回ったら、何と見つかったわけ。で、連れて来て「はい、お前結婚しろ」と。まさかの事態が発生した。「いやあ、これではお釈迦様の所に行けない」と。「どうしようか」と。

そしたら、その女性と言うのも、この世に居ない様な天女の様な方らしい。それで「じゃあよし。お父さん、結婚しますけれど、一週間教団に行っても良いですか?」。「よし、ただしすぐ結婚しなさい」と。お父さんとしては、結婚してしまえばもうしめたもので、ね。奥さんの許可無しに行けないし。「じゃあ、修行をしに行っても良いだろう」と。そして、教団に行ったわけですね。比丘になって、もう出て来ないから奥さんが心配して「あなた一体どうしたの?何時帰って来るの?」。「いやあ、これ これこれとお話しされたようで」と。やっぱりカシャパ尊者の凄さで、やっぱり奥さんも潔く比丘尼になったわけです。だから実は結婚したけれども、一回も同じ部屋で寝ていないわけです。

教団についてカシャパ尊者と言う風に、教団はね、非常にその13の戒律でも、食べない事、もう一つは女性の部屋に一人で入らない事。

それでアラハンティッサはね、何時でもピンダパータに行くでしょう?若い比丘であろうが、年取った比丘であろうが、同じ様にしなければいけないから。この奴隷の若い女の子はね、使用人に「絶対お前達はティーサの前に顔を出しては駄目だ」と。で彼女の使い者だけは顔を出しても良いと。何処を通るか調べ上げて、その家を借り切ったわけ。必ず掟は一軒一軒回らなければいけないと。

何故かと言ったら、カシャパ尊者がね、何時も貧乏人の所に行くわけです。お釈迦様は「何でお前はそんな貧乏人の物も食べられない所ばかり行くのか」と。「少しは金持ちの所に行って、恵みを与えなさい」と。何故かと言ったら、カシャパ尊者が食(じき)を受けた場合には、直ぐに大金持ちになる。だからある農夫がね、カシャパ尊者が歩いて、「ああ、尊き聖なるお坊様、どうか私の弁当食べて下さい」と。非常に貧しい。「はい、良いよ」と食べて。そして、土を掘ったら全て金になるわけ、金。金の塊。だからお釈迦様がね「そんな差別して、貧乏人の所ばかり行って乞食をしないで、必ず差別無く一軒一軒回りなさい」。

それで、ティッサ尊者も一軒一軒回って行くわけです。この召使の女の家は素通り出来ないわけ。必ず受け取らなければいけない。だからそこでは、この召使の女の人がある、やっぱりとっても美味しい食べ物を入れるわけ、いつも。でその味に憧れて、もう絶対に行くのが楽しくて、絶対に行く自体だけでも口がワクワクして、体がワクワク。本当はただ貰って帰らなければいけないのに、やっぱりこの食べる味の為に、そのうち気さくに中まで入ったわけ。普通はそうしないのだけれども。

その内に、召使女がわざと病気の振りして寝て「今日はお鉢だけ下さい」と。「一体どうしたのか」と。召使女が、「ご主人様が、病気で倒れて寝ています」と。お鉢はその女性の部屋の中にあるわけですね。ところが、食べる事がもう強烈なわけです。麻薬みたいに、その渴望。それで、その部屋の中に錠を破って入って行ったわけ。もちろん美味しいものはボンボン入れるし、それを見て喜びながら。でこう言うわけですね、この女の召使が「やあ、あなた様を憧れて、遠いラージャガハから今来てあなたの為に、こういうものを捧げたい為に来たのです」と。そう言いながら、美味しい 美味しいものを捧げて。でその隙に、使用人にちゃんとかごを用意させてスワットとサーバティーから出て行ったわけ。

そしたらまあそのエルダーティッサは、その時もうスターみたいに、彼がいるだけで夜の空の満月が輝く様に、もう見る限り聖者なわけですね。これでもう教団では、大尊になったわけです。それでその時に、お釈迦様が来て「一体どうしたのか」と。「いやあ、実はこのティッサ長老が、女に連れられて、今ラージャガハに旅立っています」と。「あ、そうなのか」と。「実はこれは今始まった事ではないのだよ」と。

前世のゴータマ仏陀とエルダーティッサ

前の前世の時も同じ事があってね。これはお釈迦様がその前世の時は14番目の菩薩行をやる時で、その時お釈迦様はその国のバーラーナシーの王様でね。その非常に素晴らしい庭園を持っているわけ。その庭園をちゃんと管理する使用人が居るわけですよ。その王様が、使用人のサンジャヤという方です。これが私がね、サンジャヤ スジャータ、多分男の方だと思いますけれど。それで王様が「全て変わった事が無くて良いのか?」と。「はい、良いです」と。毎日花とか摘んで、宮殿に持って行くわけですね。

でその素晴らしい庭園に、もうこの世にもない様な、素晴らしいアンテロップ (antelope: カモシカ類)、鹿ね。アンテロップ、ただの鹿ではなく、飛ぶでしょう? パーン、パーンと、楽しげに 楽しげに飛んでいるわけ。王様もそれをチラッと見たわけ。これでまた庭園を管理する人も見たわけですね。「いや、実は王様。アンテロップがここで楽しげに飛び回っていますけれど、それ以上は何もないです」と。「いや、実は私も見た」と。「お前、そのアンテロップを連れて来る事が出来るか?」と。「もし、蜂蜜を下さったら、私は連れて来る事が出来ます」と。

ところが、その野生のそういう素晴らしいアンテロップは、殺されたくないし、非常に敏感な、超敏感なわけ。それでいつも観察して、ある所に来て草を食べるでしょう? そこで蜂蜜を塗るわけ。その蜂蜜があんまり美味しくて、何時も来るわけですね。で彼はチラッと

姿を見せるわけです。で、ビックリして飛んで行くと。でも、そこに蜂蜜があるからまた戻って来て。彼は何もしないわけ。そういう風にしてドンドンドン近づいて行って、最後には蜂蜜を塗ったその草をあげる、食べさせて。で、そういう事に慣れて慣らして、その道をずうっと宮殿までそういう草を敷きながら。で、自分の体も蜂蜜の匂いで一杯塗って、そしたらこのアンテロープが付いて来るわけです。安心して、絶対に危害を加えないと。そういう風にして宮殿に入ったら、ドアがバーンと閉じたわけ。

で、その宮殿の中を走り回って、王様がこのアンテロープを見て「いや、鹿さんよ。あなたね、食べ物に釣られてこういう事になって、こういう事をしてはいけませんよ」と。それでドアを開けて、森に返したわけです。その王様が、ゴータマ仏陀の菩薩で。で、そのアンテロープが今のエルダーティッサで、そしてその女の召使いが、この宮殿を管理する庭師だったわけですね。

という風にこういうアラハンでも、その渴望と言うか、それによって召使に食べ物で誘惑されてお父さんの所に帰って行くと。その後、またエルダーティッサだから、結局戻って来るのでしょうけれど、その後の話。これは、マッジマニカーヤ (Majjhima-nikaya: 中部経) の中のお話らしい。ま、そういう事で食べるという事は、自我に直結しているわけです。自我、アッタ (atta)。なかなかこの自我と言うのは凄いもので、「体が痛い」と。これは実は自我なのです。「体が思うように動かない」と。これも自我。

この自我を明快に見る手法は、やっぱり六祖大師の空を観ると。その手法で握めますけれど、この空を観るという事がまた至難の業で。だから昨日説明したでしょう？ 虚空蔵菩薩のその空我から観れば、空の我。空我、自我、空我から観れば、その自我のアクサラ (akusala: 不善)、クサラ (kusala: 善) が良く分かります。という昨日お話したわけです。

深い意味のあるジャータカ物語

まあ話は、こういう風にジャータカ物語でもふかーい意味があって、明日はゴータマ仏陀がある時にサル王様で八万のサルを連れてたという、また西遊記から始まって西遊記のサルのお話をしますね。だから西遊記の孫悟空は、このジャータカ物語の中と一体化しているわけです。中のお話が、色んなお話が。やっぱり本当の事だから、実に面白いわけです。ふかーい意味があるわけです、その中に。だからそのジャータカ物語を、本当に心から楽しめば、これは仏教としてはマルマルマルマル。百年瞑想するよりもマルマルマルマル (笑)。と言う風に偉いアラハン達が如何にして人を導くかと言う、もう一番素晴らしい本だと思います。でなければ、無我だとか、無だとか、我だとか、禪定だとか、もう誰も飛びつかない (笑)。で、誰も涅槃に行けません。だからこういう話をお釈迦様がして回りながら、実際に沢山の奇跡を起こして行ったわけですね。



質疑応答

その人に合った「公案」でなければ空を観る事は出来ない

【参加者】

空を観るという事で、例えば只管打坐の場合、色んな現象を起こして行って、そのまま座り続けて、ある時突然、空の中にいるみたいな感じで？

【水源師】

いや、それはやっぱり先生から公案。先生からその人に合った公案を得なければ、空は観る事は出来ません。

【参加者】

では、僕の場合だったら、このまま続けて行くとしたら……。

【水源師】

ある時期になったら、公案を受ける事が出来ます。むやみやたらに公案するのは、あれは

完全に間違い。幾ら解いても、それはなぞ解きで何の意味も無い。

【参加者】

虚空蔵菩薩の「空我」って言うのはどういうものなのですか？

【水源師】

修行されますか？

【参加者】

(笑)。

【水源師】

修行によって観えます。

【参加者】

インターネットとかで検索すれば、出て来るというものではないですか？

【水源師】

出ない 出ない 出ない。それはもう密教の超極秘の世界で。だからそれ自体を言う方も殆ど居ないと思う。

「人空・空空・法空」をしっかりと観ればお釈迦様の話が深く理解できる

【参加者】

ヴェーダナーヌパッサナーでも、空にずうっと近づいて行くって、先生がおっしゃっていたのを友達に・・・。

【水源師】

涅槃に直結します。涅槃に直結したら、空はいらないでしょう？

【参加者】

そうですね、それはヴェーダナーでもずっとやって行けば、行くという事ですか？

【水源師】

まあ、涅槃を垣間見たら、またその空を観る手法がまた別ですから、その時また教えます。何故空を見る必要があるかと言ったら、深く経典を研鑽するには空を観なければ、理解出来ないわけです。その空も「人空、法空、空空」までしっかりと観た時には、このお釈迦様の話が

非常に深く理解出来ます。物語ではなく、実体として。でも一番簡単なのはね、観世音海潮禪をやれば、それは早い。阿弥陀様の所に行けば、どうしても涅槃に行きますから。

悪意のある人をやっつけたら、悪いカルマにはならない

【参加者】

クサラ・アクサラの事で、非常に日常的な事で、私達が何か例えば自分が気に入らない事があったり、人から責められたりとかした時に怒りが湧きますよね。その時に、私が理解しているのは、怒りが起こるのは耳から何か入って来たり、明らかに暴力があったり、体が痛いとか何かそれによってこう反応して、怒りが生まれて。で、普通だったらそこでそのまま反射的に自分が怒るのだけれども、そこで「あ、自分が怒っているな」という事に気が付ければ、まあ普通少しそこでクールダウンして、そこから離れられる、その怒りを手放せると言う事は実感として何となく分かるのですけれども。

【水源師】

あのね、剣道とか柔道とか空手とかボクシングをやれば、そういう事に遭ってもケラケラ笑えます(笑)。それは恐怖から来る怒りであって、そういう武術を持った場合には、そういう事を言っても、まあ知らん振りしてほっておくし、もう来ても一撃で倒せますから。それはね、相手を憎くして倒すわけではなく、ケラケラ笑って「馬鹿だなあ」という「少しちょっと教えてやろう」と言う厳しい愛と言いますね。厳しい 愛であって、憎くしてやるわけではないわけです。だから達観しているわけですよ。だから結局ヤクザが10人かかって来ても、そこまで達すればケラケラ笑って何ともないわけです。

では、拳銃で撃たれたらどうするのかと。まあその前に分かるからね。拳銃持っているかどうか。近づかない。そうでしょう？

【参加者】

まあ、武術の護身というのは、理想的な護身はそういう武術です。

【水源師】

そうでしょう？

【参加者】

それは怒りが起こらないという事なのですか？

【水源師】

起こりますよ。でも起こっても、ここで止める。ここでやれば、カルマになります。ここで止めてしまえば、カルマにならない。だから自分がね、こう突然襲われた時に、正当防衛としてボ

オーンと蹴るのは、それは仕方ない。相手がますます悪いカルマを作る事であって。あなたは、あなたの命を守るか、また他の人の危害を防いだから、それは問題無い事で。

ところが、この世の中は難しく、柔道、拳法、空手、その極意に達するには、それ相当の努力も必要だし、そういうマーシャルアーツ(martial arts:武芸)も正しく使えば素晴らしい事であってね。やっぱり精神修養にもなるし、人も助けるし。そういう事で、何も悪い事ではないし、達磨大師様も少林寺拳法をインドから持って来た方で、結局どうしてもそういう法を持つ必要もあるし、お坊さんは、何故かと言ったら、何も無くから素手で旅して、コロッと死んだら法が伝わらないでしょう？殺める為ではなく、法を伝えるが故にそういう少林寺拳法と言うか、そういうものをちゃんと身に付けて旅をしなければいけないわけですね。昔はもう何が出るか、分からないから。鬼が出るか、野獣が出るか、臨機応変に。そういう事で良いでしょうか。

【参加者】

それは、暴力的な事ではそうかもしれないですけど、例えば分かり安い事で言えば、いじめだとかそういう時に、まあそれはそこで達観して「この人は可哀想な人だな」と思えば…。

【水源師】

思えるだけでも、それは止まらないから、ある程度マーシャルアーツも知る必要もあるし。それからそれだけの結局無謀な考えを持っている事が、非常に無謀であるという正論もちゃんと持っていなければ。それでバンバンと言って「何をするのか」と。学校の中ではそういう風にして、もしそういう風な暴力をやって来た時には、自動的に対抗出来るだけの力を持たなければいけないし。今、学校教育では「暴力反対、反対」と言っているけれど、口の暴力も一杯あるし。口の暴力の場合には、それに対して正々堂々と反論するだけの事を教えてあげなければいけないわけです。

ところが、学校で教える場合には、ただ空論ばかりで「ああしなさい、こうしなさい」と。ところが、世間一般で、非常に低俗な無謀な差別用語とかいっぱい言って、その意味も分からずに、今度はもう全部廃止して益々おかしくなっているわけです。人間が人間として、正しく生きる、幼稚園、小学生の時が一番大切なのに、その純真な心でしっかりと指導してあげなければ、今度は高校、大学と、もう非常におかしな惨事を起こす。殺人とか色んな事。だから私が言ったのは、人を殺すのは悪いけれども、原因を考えたら、結局社会的な病がありますと。ま、そういう事で、私は私の体験でね、色々見えますけれど。

【参加者】

つまりそこで反応して言葉に出すとか、体の行動を起こした時に、カルマが起きる。自分としてのカルマが…。

【水源師】

結局、悪意のある人をやっつけた場合にはそれは悪いカルマにはなりません。

【参加者】

やっつけても、ですか？

【水源師】

もちろん。それは他の人のこれから被害を止めるから。無謀に野放しすれば、ばい菌がドンドン流行るみたいに、そういう子がまた子分を付けてドンドン集団みたいになったら大変でしょう？だからその前に芽を摘んでしまえば、それは良い事をしているわけ、逆に。

ところが、今はもう悪知恵が発達してね、口と頭でコロコロ言い負かして、よく陰険な状態が出来ています。昔は、喧嘩しても腕白坊主でカラッとしたものだったけれど。今はもう知識がありすぎて「ああ言えばこう言う、こう言えばああ言う」で騙して、良い物を悪い、良い物を悪い風になってしまいますね。ま、そういう事で良いでしょうか？

公案（体験をされた方の）を与えられても、受け取るだけの下地がなければ難しい

【参加者】

丹田についてなのですけど、丹田呼吸でも空の世界に行く事が出来るのですか？

【水源師】

基礎です。その辺がしっかりしていなければ、後で公案を与えられた時に、腰砕けで何処にも行けません。

【参加者】

基礎としてしっかりやって、空を観るには公案を戴く……。

【水源師】

基礎をしっかりやって、受け取るだけの下地が無ければ無意味。だから、ちゃんと空を体験した先生から公案を貰わなければ、それは無意味。本から公案を貰っても、それは無駄。時間の無駄とそれから頭と心の障害を起こします。自分で決定してしまうから。

【参加者】

今の質問の続きで、丹田がしっかりして来たという、自分で分かるにはどういう感じなのでしょう？

【水源師】

結局ね、数息観やらずに、やっても良いのですけれども、こうずっと瞑想して行ったらね、こうニミッタが出て来ます。観えます。で、時間もね、あつという間に過ぎるし、そしたらもう相当な域に達していますから。

【参加者】

丹田でやってという事ですか？

【水源師】

そうです、そうです。それだけで。

【参加者】

丹田でやっていて、ちょっと重くなると言うのは、やり方が何処かおかしいのでしょうか？

【水源師】

重くなると言うのは、何処ですか？

【参加者】

重いと言うか、こう疲れると言うか、気持ちがこうスカッとしないと言うか……。

【水源師】

それはね、多分力を入れすぎてやっているから。全て自然体。呼吸も自然体。全て自然体でやった場合には、スカッとするはずです。だから色々試してみてください。家でも。ただ素直に。一番良いのは素直にこう数息観をやって行けば、大体それは克服されるはず。それが、何も考えずにただ丹田だけやって行けば、心が飽きますからね、それでそういう場合は数息観でやって行けば、心が飽きないから重さが消えると思いますけれど。それでやってみてください。

【参加者】

ニミッタが光るという場所と言うのは、光る場所が決まっているのですか？ 光る場所。

【水源師】

決まらない。

【参加者】

それぞれ違うのですか？

【水源師】

光がもう昼の様に明るくなったり、キラキラ金の金粉が落ちて来たり、ダイヤモンドが光ったりとか。

【参加者】

眩しいという状態？

【水源師】

それもあるし、色んな状況が出て来ます。そこで、正しい方向を教えて貰う先生に会わなければ、何と言うの？ダイヤモンドを溝に捨てるみたいになります。

【参加者】

アナパナサティ(入出息念)をやっていても丹田って鍛えられるのですか？同時に。

【水源師】

いや二つ一緒にしない。アナパナはそれだけでも素晴らしい行法で、これだけで全ての病気が治ります。受随観も何もしなくても。それ全て自然体。ただしそういう状況が発生するのは、タイで生まれたり、スリランカで生まれたり、ミャンマーとかカンボジアとかそういう南伝の国で生まれた時から、仏教の神秘的な世界で来た場合には、素直にアナパナ出来ますけれど。こっちではアナパナ呼吸法一回も教えられていない、禅法の方が主流だから。

だからその美味しいご馳走を食べずにやったら、お腹が空くでしょう？だから無理が発生するわけです。だからまず丹田でやるか、でなければそういう南国に行って、一年でもゆっくりに暮らして、それでお寺の中でじっくりやったら、もう直接アナパナで十分やっていけます。ここはとても異質な文化だから、まずそれをやってから、体がしっかり覚えて、ここに入れば旨く行くはずですよ。

【参加者】

丹田瞑想からやって行った方がじっくり行くのですか？

【水源師】

そうだと思いますよ。結局南伝仏教は非常に素晴らしいですけど、やっぱりその国の環境に行くとちゃんと体感すれば、やり易いのですけれど、仏教は実際の事ですからそれを見ないで想像だけで頭だけでやれば、難しい。空論ではないし、想像では出来ません。ところが、そういう風にイメージ瞑想とかやるでしょう？実際にそれを教える先生が体感した場合には良いのでしょうかけれども、まず有り得ない事ですね。

私達は宇宙の大不可思議な生き物

【参加者】

光なのですが、ニミッタの光とヴェーダナーヌパッサナーで光るのはまた違うものなのですか？

【水源師】

一緒です。本源は一緒に仏光です。本源は毘盧遮那仏。「ピロサナーメッタ」って書いてるでしょう？この事。

【参加者】

ヴェーダナーとかだと、バンガーで体が光るとして、丹田とか禅系でもこう体が光るみたいな事も・・・。

【水源師】

もちろんあります。心と息がこう一致した時には、そういう現象が起こるからです。

【参加者】

心身が旨く統一されて来たら、感覚的に光ったり・・・。

【水源師】

そう、色んな事が起こります。だからこれを理論で解説・解析しようとか、そういう一步一步の手作業みたいな事をやれば、なると。結局、過去の因縁、過去世が非常に大きな影響を与えますから。そう一概にね、ロボットでは無いから。私達はロボットでは無い。ロボットの場合は、ボタンを押してちゃんとやればその通りになって行くけれども、私達はもう宇宙の超絶妙な生き物だから。ワンコちゃんでも一緒です。お猿さんでも。この肉体を持っていると。心に心が、ポーンとあると。不可思議、不可思議の大不可思議だから。

で、そのお話を明日。お猿さんのお話。

【参加者】

丹田禅の時、目を開けてやっいて、この辺がガアーンと光ると言うのは・・・。

【水源師】

もちろん、光ります。

【参加者】

それは、光ったらそのままずっと座って・・・。

【水源師】

そうそうそう、良い状況で精神が非常に統一していると言う。はい、非常に素晴らしいです。

本だけでは「その人が本当にそう言ったのか？」「本当にそうなのか？」わからない

【参加者】

チベットのお坊さんで大聖者って言われている方で、お名前は覚えていないのですけれど、よく虹色のこうチャクラから出ている絵で。虹の何とかと言う。

【水源師】

レインボーボーイとか言うのかな？

【参加者】

ちょっと分からないのですけれど、顔は書いていないのですけれど、顔の中心から虹色がバアッとオーラが出ている絵がある(Padmasambhava:蓮華生大師の絵)。その方が「13年間慈悲を持ち続けていたら、もう生まれ変わらない」と言われたという話を聞いたけれど、、、

【水源師】

それは分からないけれど、どうして生まれ変わらないのか。結局、アラハンになるという事です。やっぱり、その人と直接と会って話してみない事には分からない事。本だけでは、本当にその人が言ったかどうか分からない。もしそういう方法があれば、ナーガールジュナ(龍樹菩薩)様がね、今から二千年前に出ましたけれども、その方がとくに教えているはず。

この方が、密教を作ってボロブドゥールの世界最大の遺跡を作ったわけでしょう？あそこから発生して、千年前にそこにインドから来たお坊さんがチベットに上がって行って、これがダライラマの宗祖になりますから。この方が、14年そのボロブドゥールで修行して、13年チベットでそれを教えて死んだと。

で今「13年やれば」と。13年チベットに居て死んだわけですね。このお坊様。その「13、13」という数字の事がやっぱり何か意味合いがあると思いますよ。だから沢山、本で書いていますけれどもね、どれだけ本当かどうか確かめてみなければ。良い事は言うけれど、本当にそうなのかどうか。また良い事を書いても、どういう風にしてそれを達成出来るか教えて貰わなければ、猫に小判。

【参加者】

13日間でも現実レベルで慈悲を持つと言うのはなかなか難しいから・・・。

慈悲の瞑想、死の瞑想、仏陀の瞑想

【水源師】

いや、慈悲の瞑想をして。そしたら、凄い結果が出ると思いますよ。多分、その事かもしれませんね。持ち続けると言うよりも、慈悲の瞑想をずっとして行けば、そこに到達しますからという事。13年も要らないと思う。ニミッタを出したら、もう非常に早い時期で行ってしまいます。

【参加者】

それは、まさにこのメッタスッタ(慈経)に書いてある事ですよ。

【水源師】

はいそうです。

【参加者】

生まれ変わらないと書いてあります、ここに。

【水源師】

そうです。だからそれは具現化したのでしょうか。具現化するの、メッターヌッサティ：(Mettānussati) 教えたでしょう？だからそれをやって下さい。私の音律を忘れない様に。私が言った事、ヴァイブレーションを忘れない様にして唱えて下さい。だから本を読んでテープレコーダー聞いても無理なわけです。実際のその人からでなければ、他の人がやっても全然効果がなくて、逆におかしくなると。

【参加者】

一度こう直接聞いていれば・・・。

【水源師】

もっと凄いです。

【参加者】

それを録音で聞きなおしても、という事は良いわけですね。

【水源師】

そうです。

【参加者】

もう一回、今録音しておいているので、お願いします(笑)。

【水源師】

いや、今日は疲れてちょっと力ないです(笑)。明日最終的にもう一回。

【参加者】

明日、死の瞑想の説明をして下さる？

【水源師】

そうです。でまた、その時にまた私のヴァイブレーションを良く聞いて覚えていて下さい。

【参加者】

この一番初めのブッダの瞑想と言うのは？

【水源師】

ブッダヌッサティ(Buddhānussati: 仏随念)。ブッダヌッサティは、これをやって行けば、お釈迦様を見る事が出来ます。

【参加者】

これはまた合宿の初めに説明をされたのですか？

【水源師】

これはしていない。メッターヌッサティ(Mettānussati)と死の瞑想(Maranānussati)。これは非常に重大な科目です。本当の科目ですね、本当の意味の重大な科目で、世間一般に言っている愛の瞑想、慈悲の瞑想とは、レベルが全然違いますから、だから直接もう結果出していますから。他の処方は、幾らやっても。まあ気持ちは良くなると思いますけれど。



水源禪師法話集 **64**
(2016年9月23日 大阪合宿7日目)

2017年2月18日 発行

編集兼発行 一乗禅の会